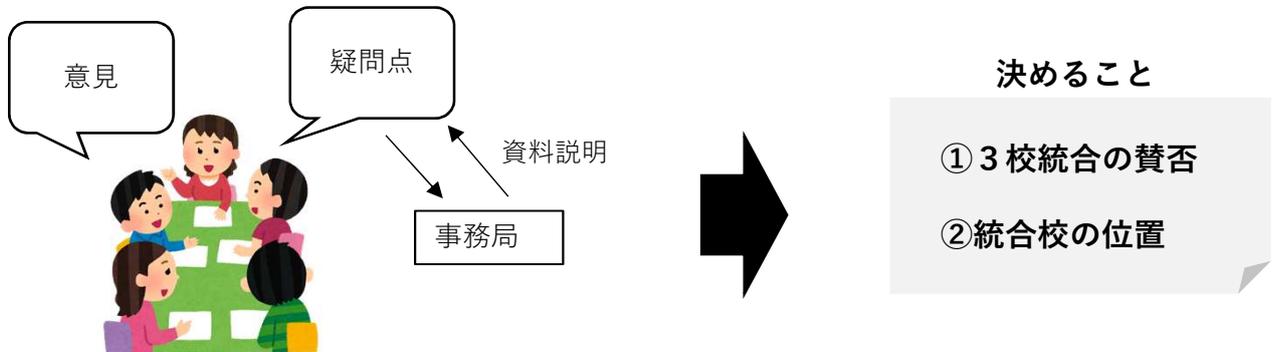


会議の進め方について

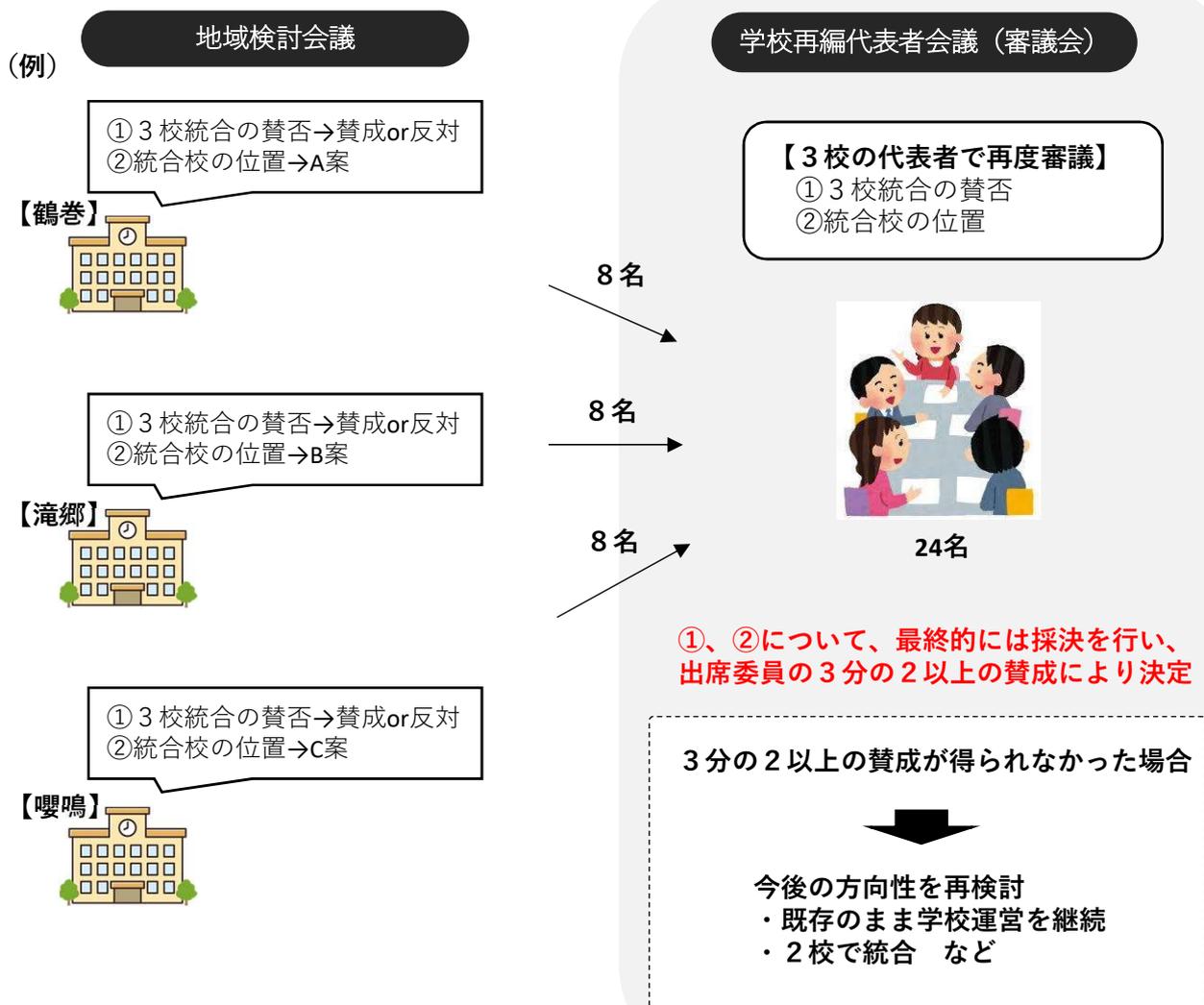
1. 地域検討会議の進め方



会議 1回、2回、3回・・・

会議を重ねて判断材料を集めます。

2. 地域検討会議終了後の流れ



事例紹介

事例Ⅰ【兵庫県美方郡香美（かみ）町】小規模校を存続した上での活力ある学校づくり

※文部科学省 学校魅力化フォーラム 令和元年度発表

兵庫県の北部に位置し日本海に面している山地丘陵部が多く南側の標高約 1,500mの山地から日本海側に丘陵部が広がる。

- ・人口：15,379人 (R6.8.31) ・面積：約 369 km² (宅地約 1.0%)
- ・学校数 (児童生徒数 R1.5.1)

小学校：10校※分校1校 (779人) / 中学校：4校 (417人)

香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン (H25～)

- ・スクールバスで移動しての合同授業 (学校間連携) の実施

※年間30時間実施 (1回3時間 10日間)

※主な実施時間：9時～12時 教科：3教科程度

9割以上の保護者から高い評価を受けた。

【成果 (抜粋)】

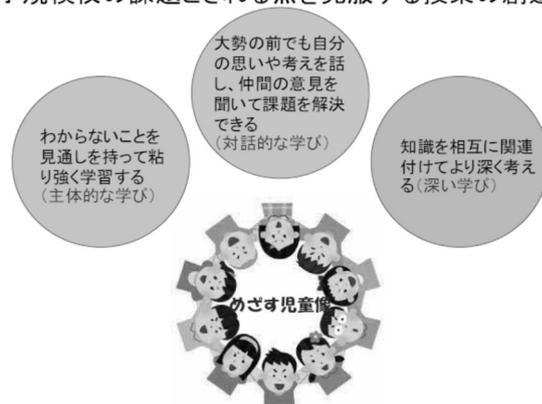
- ・児童のコミュニケーション能力の向上、中1ギャップの解消、教員の指導力向上

【課題 (抜粋)】

- ・準備、教材研究時間の確保
- ・日程調整、通常授業への影響
- ・特別な配慮が必要な児童の理解と情報の共有化

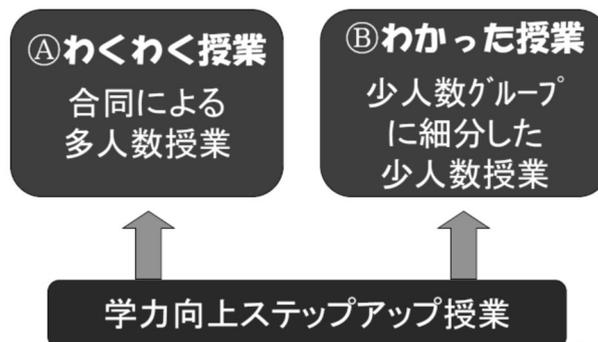
(1) 【ねらい1】

小規模校の課題とされる点を克服する授業の創造



(2) 【ねらい2】

学力向上を目指す、ステップアップ授業として「わくわく授業」と「わかった授業」を推進



参考：令和元年 学校魅力化フォーラム資料より抜粋

更なる少子化により再編を望む声があり、令和4年7月「香美町学校再編計画 (案)」を策定。

事例2【山形県西村山郡西川町】5つの小学校を1校に統合（H24.4）。学校図書館を地域と共有化

※文部科学省 学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（H29.3）

山形県のほぼ中央に位置し、朝日連峰や月山とその支脈に囲まれている。総面積の約95%が山地となっており、県内有数の豪雪地帯で多い地区では5mを超える積雪がある。

・人口：4,580人（R6.9.1）・面積：約393km²（宅地約0.5%）

・学校数（児童生徒数）

小学校：1校（147人）R5.4.1／中学校：1校（81人）R6.4.1

学校図書館で公立図書館と同様のサービス提供を実現

【取組の特徴・ポイント】

- ・5つの小学校が統合したためスクールバスや保護者の送迎により登下校をしている。その際、待ち時間を図書館で過ごすなどとして待合わせ場所としても活用されている。
- ・地域住民の利用を前提とすることで、常駐スタッフを学校司書として確保している。

【運営体制】午前9時から午後6時（土日祝日は午後5時まで）、休館日は毎週水曜日

・図書室蔵書数／約6万5,000冊・駐車場100台整備

【取組の効果】

- ・図書室のグレードは、他の学校と比較すると高い。
- ・日常的に地域住民が出入りすることにより、「特定多数の目」の存在が学校のセキュリティを高めることになる。

【取組後見えてきた課題】

- ・町民の方は、遠慮しているように感じているので、もっと気軽に利用できるよう周知する必要がある。



【文部科学省】公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（P.19-20）※第2回資料再掲 統合事例からの直接的な効果

- ・良い意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった。
- ・以前よりもたくましくなった、教師に対する依存心が減った。
- ・社会性やコミュニケーション能力が高まった。
- ・切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上した。
- ・多様な意見に触れる機会が増えた。
- ・グループ学習や班活動が活性化した、授業で多様な意見を引き出せるようになった。
- ・音楽、体育等における集団で行う教育活動、運動会や学芸会、クラブ活動、部活動などが充実した。

事例の詳細については、下記QRコードよりご確認ください。

文部科学省「学校魅力化フォーラム」



学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書



(仮称) 海上地域小学校の候補地について

2024-9 (仮称) 海上地域小学校地域検討会議

	基本方針 案1	基本方針 案2	その他 1	その他 2																																																
候補地	嚶鳴小学校	旧海上中学校跡地	海上公民館等の敷地	海上中学校北側農地																																																
航空写真 敷地																																																				
敷地面積	18,231㎡	約27,000㎡	約20,000㎡	約35,000㎡																																																
1. 立地・アクセス性	<ul style="list-style-type: none"> 地域の西側に位置している。 水路により入り口が狭いため、水路を改修して出入口を増やす(広げる)必要があるが、改修すれば保護者の送迎やスクールバスの運行はしやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の南側に位置している。 嚶鳴小と鶴巻小の一部からは徒歩通学圏内にある。ただし嚶鳴の琴田・江ヶ崎地区からは遠くなる。 県道側が交通渋滞しやすいため、出入口を複数に分けるなどの対策は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のほぼ中心に位置している。 嚶鳴小と鶴巻小の一部からは徒歩通学圏内にある。ただし嚶鳴の琴田・江ヶ崎地区からは遠くなる。 中学の送迎と被り交通渋滞発生懸念がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のほぼ中心に位置している。 嚶鳴小と鶴巻小の一部からは徒歩通学圏内にある。ただし嚶鳴の琴田・江ヶ崎地区からは遠くなる。 中学の送迎と被り交通渋滞発生懸念がある。 																																																
2. 周辺環境・駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地が隣接している。 駐車場はやや不足しているが、プール解体などの配置を見直すことで、駐車場は広げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地が密集している。 敷地が広いので、駐車場は確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や公園が隣接している。 校舎やグラウンドの必要面積を踏まえると敷地内だけで十分な駐車場を確保することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や公園、公民館などの公共施設が隣接している。 敷地設定にもよるが、駐車場は確保可能。 																																																
3. 安全性	<ul style="list-style-type: none"> 総掘線沿いの歩道が広い。 スクールバスと保護者送迎、児童の出入口を分けるなどの対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 県道の交通量が多い反面、歩道が狭いため、交通安全対策が必要となる。 広原地区(一般県道飯岡停車場線)の冠水対策工事は進めているが、引き続き周辺道路の冠水対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 総掘線沿いの歩道が広い。 周辺の道路幅は広く、見通しが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 総掘線沿いの歩道が広い。 周辺の道路幅は広く、見通しが良い。 児童と自動車の動線を分けるなどの安全対策が必要。 																																																
4. 建設費(目安)	<p>約10億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎改修(ライフライン・教室・屋根・外壁) 体育館 グラウンド、駐車場など <p>※土地拡張の場合、追加費用が生じる</p>	<p>約45億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校新築 	<p>約80億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校新築: 約45億円 既存施設解体: 約5億円 公民館新築: 約30億円 	<p>約50億円</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校新築: 約45億円 土地購入費等: 約5億円 																																																
5. 統合までの期間(最短)	5年程度	7年程度 ※排水対策、交通安全対策を要する。	10年程度 ※公民館の移転を要する。	10年程度 ※農業振興地域の除外・農地転用・用地買収を要する。																																																
6. その他	<p>5年後(R11)の児童数推計 406人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> <th>6年生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鶴巻小</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>22</td> <td>10</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>滝郷小</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>嚶鳴小</td> <td>41</td> <td>36</td> <td>45</td> <td>46</td> <td>49</td> <td>55</td> <td>272</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>66</td> <td>68</td> <td>77</td> <td>76</td> <td>406</td> </tr> <tr> <td>クラス数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>クラス数は1クラス35人で計算。特別支援学級を除く。</small></p>		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	鶴巻小	13	15	11	16	22	10	87	滝郷小	7	7	10	6	6	11	47	嚶鳴小	41	36	45	46	49	55	272	合計	61	58	66	68	77	76	406	クラス数	2	2	2	2	3	3	14	<p>委員より、統合中学校を旧海上中跡地に新設し、現海上中を統合小学校として活用するという案もあったが、統合中学校を新設するには敷地面積が不足している。</p> <p>【海上中 約45,000㎡】 【飯岡中 約36,000㎡】</p> <p>その他の跡地利用の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> 住居系を中心とした複合施設や移住者向けの分譲地 生涯活躍のまちの波及効果を見極めた上での土地利用 	<p>【旧海上支所】事業継続計画(BCP)で市役所の代替施設に指定されている。</p> <p>【海上公民館】大規模改修を行いながら2061年まで利用する。</p> <p>【海上健康増進センター】大規模改修を行いながら2041年まで利用する。</p> <p>【子ども発達支援センター】海上健康増進センターと併せて検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興地域 大利用水国営施設機能保全事業(R5年度事業完了)
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計																																													
鶴巻小	13	15	11	16	22	10	87																																													
滝郷小	7	7	10	6	6	11	47																																													
嚶鳴小	41	36	45	46	49	55	272																																													
合計	61	58	66	68	77	76	406																																													
クラス数	2	2	2	2	3	3	14																																													
市としての見解	<p>既存の施設を活用するため初期費用は抑えられる。立地が偏っていることはネックとなるが、既存の施設を有効利用するという基本方針を踏まえると、嚶鳴小学校が統合校の第一候補となる。</p> <p>ただし統合にあたっては出入口を含む駐車場の整備や、隣接民地の取得なども検討する必要がある。</p>	<p>立地的には嚶鳴小と鶴巻小から徒歩通学圏内にあるが、県道は交通量が多いことや歩道が狭いこと、排水対策を行う必要があるなどの安全性では嚶鳴小学校に劣る。</p> <p>また、新築する費用面や工事期間を踏まえると、統合までに滝郷小の複式学級が発生する可能性があるため、統合校の第二候補となる。</p>	<p>立地は適当だが、既存建物を用途変更して利用する場合、建築基準法の制約が生じることがあるため、既存建物の利用は難しい。建物を解体して新築する必要があるため、公民館の移転費や解体費が生じる。</p> <p>上記のとおり、旭市としては各施設は今後も利用計画があるため、この敷地を小学校へ転用することは考えていない。</p>	<p>立地は適当だが、農業振興地域に入っているため、農業振興地域の除外や農地転用のハードルが高い。</p> <p>また、新築費用のほかに土地の購入費がかかることはコスト面での課題となる。</p> <p>現時点で新たに用地を取得して新設することは考えていない。</p>																																																

嚶鳴小学校を統合校とした場合の整備例

【駐車場】

- ・ 出入口の拡張、増設
- ・ 送迎・職員駐車場の増設
- ・ バス乗降所の設置
- ※プール敷地を含む

【裏庭】

- ・ 舗装（通路・駐車場）
- ・ 出入口の増設・拡幅
- ・ フェンス改修
- ・ バス寄せ（車寄せ）の設置

【校舎】

- ①長寿命化改修または改築
 - ・ 屋根・外壁
 - ・ ライフライン交換
- ②全体改修
 - ・ 教室等の改修・増築
 - ・ 空調設備の改修
 - ・ エレベーターの設置



【プール】

- ・ 運用方法を検討する
- ※解体または改修
- ・ 送迎・職員駐車場の増設
- ・ バス乗降所の設置

【体育館】

- ・ 空調設備の設置
- ・ 太陽光発電設備の設置

【校庭】

- ・ グラウンド改修
- ・ フェンス改修
- ・ 体育山撤去

【遊具改修】

- ・ 劣化状況により改修・移設

【放課後児童クラブ】

- ・ 継続利用・増築

【駐車場】

- ・ 送迎・職員駐車場の増設

【その他検討する項目】

- ・ 緊急通報システムの更新
- ・ 防犯カメラの増設
- ・ 登下校システム（バス）の導入

● : 学校用地の拡張の検討

すべての項目を整備するものではありません。

整備内容については、施設の状況等を踏まえ決定していく予定です。

エレベーターは校舎に設置し、車椅子・負傷児童の搬送及び給食運搬等に使用します。

校舎正面



特別教室棟



特別教室棟（図工室・図書室）



西側駐車場



裏庭



グラウンド（南西から見た風景）

